

つなぐ

Vol.61

2023.3月

2023年2月、抗凝固薬の服用リスクが高い患者のために開発された、左心耳閉鎖術「Watchman」が200症例を迎えた。

抗凝固薬を服用し、消化管出血の経験が1回でもある患者は、出血の経験がない患者に比べて消化管出血を再発するリスクは5倍であり、抗凝固薬を服用していたが脳梗塞を発症した患者が次の1年間で脳梗塞や出血性合併症を起こす確率は13・4%と統計が出ている。そして抗凝固薬を変更したとしても、脳梗塞の再発率は同じということもわかっている。

透析患者に至っては、ワルファリンで脳梗塞のリスクは抑えられるが、その反面、出血のリスクが2倍以上になり、メリットとデメリットのバランスが取れない。皮下出血のような小出血だから問題ないと思われる患者でも、何もない患者に比べると生涯の大出血リスクは2・9倍になる。

左心耳閉鎖術の大きな利点は1回の治療で終わり、その後は抗凝固薬の服用を生涯卒業できる点だ。抗凝固薬とのつながりを絶つことで、自由に生きられる患者がひとりでも増えるように、今後も取り組んでいく。



第70回

小倉循環器内科セミナー

2023年 3月27日(月) 18:00~18:30



心臓植込み型デバイス治療について

座長 小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児

講師 小倉記念病院 循環器内科 副部長 永島 道雄

参加方法



ZOOMによる
WEB参加のみとなります!

ZOOMの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

